

調査の概要

□令和6年4月18日(木)実施

○調査内容

- ・小学校第6学年、中学校第3学年の全児童生徒を対象
- ・教科に関する調査は、小学校は国語、算数、中学校は国語、数学を出題
- ・主として「知識」に関する問題と、「活用」(知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力など)に関する問題が統一されて出題。また、生活習慣・学習環境等に関する質問紙調査を実施

○参加状況

- ・参加学校数 10校 (小学校4校・中学校2校・義務教育学校4校)
- ・参加児童生徒数 266名 (児童128名・生徒138名)

令和6年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査の結果 (平均正答率)

		国語		算数・数学		教科平均	
小学校	根室市	63.0		50.0		56.5	
	(北海道との差)	△ 4.0	縮	△ 11.0	縮	△ 7.5	縮
	(全国との差)	△ 4.7	縮	△ 13.4	縮	△ 9.1	縮
	北海道	67.0		61.0		64.0	
	全国	67.7		63.4		65.6	
中学校	根室市	48.0		38.0		43.0	
	(北海道との差)	△ 10.0	拡	△ 13.0	拡	△ 11.5	拡
	(全国との差)	△ 10.1	拡	△ 14.5	拡	△ 12.3	拡
	北海道	58.0		51.0		54.5	
	全国	58.1		52.5		55.3	

<各項目の右側の欄は、前年度の差との比較(拡:拡大、縮:縮小)>

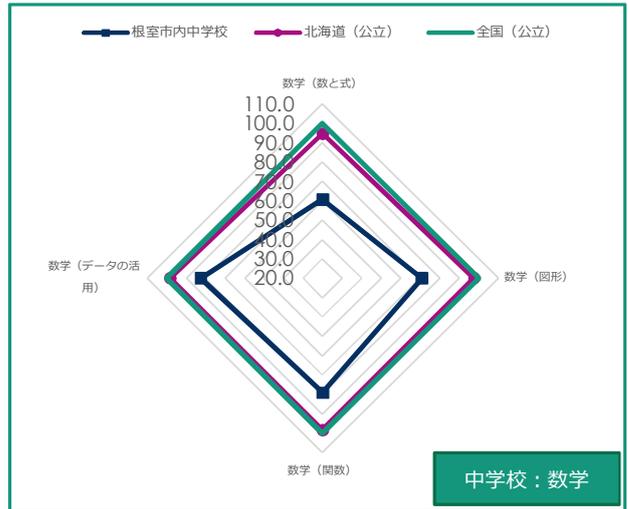
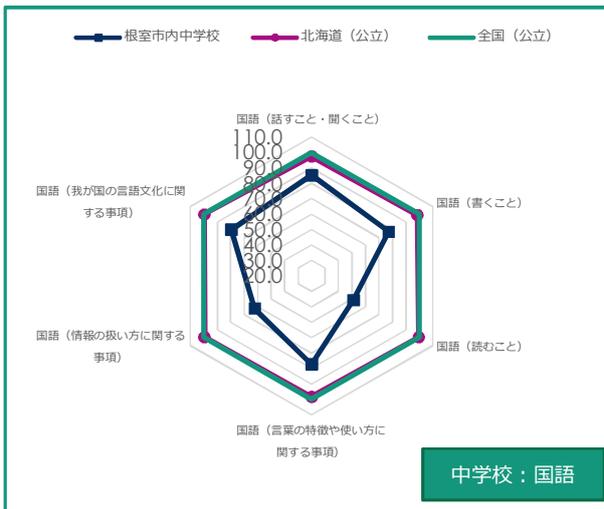
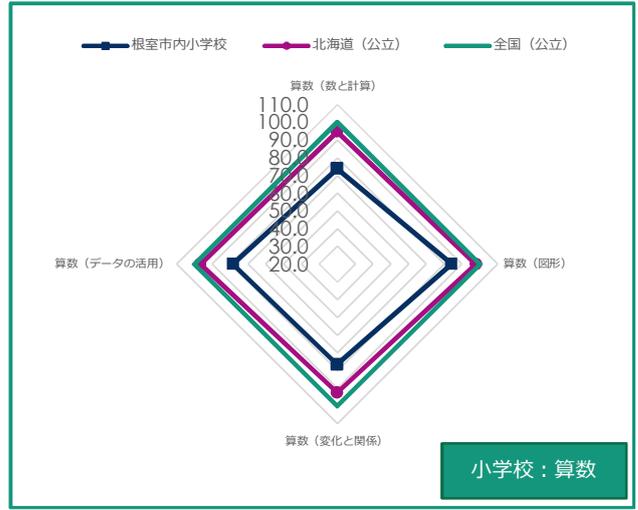
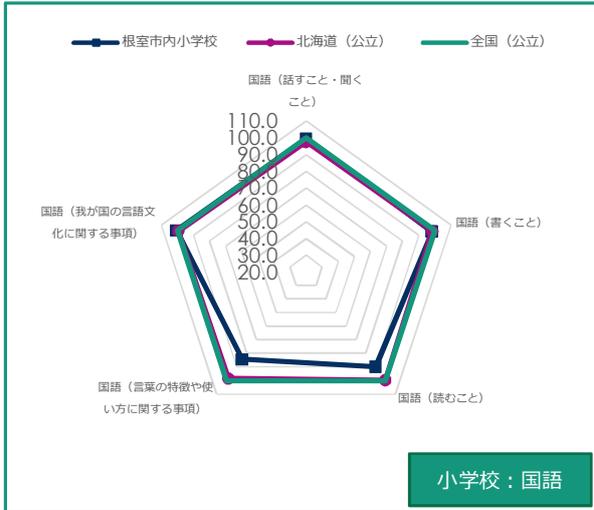
参考: 令和5年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査の結果 (平均正答率)

		国語		算数・数学		教科平均	
小学校	根室市	58.0		46.0		52.0	
	(北海道との差)	△ 8.0	拡	△ 15.0	拡	△ 11.5	拡
	(全国との差)	△ 9.2	拡	△ 16.5	拡	△ 12.9	拡
	北海道	66.0		61.0		63.5	
	全国	67.2		62.5		64.9	
中学校	根室市	62.0		38.0		50.0	
	(北海道との差)	△ 7.0	縮	△ 11.0	縮	△ 9.0	縮
	(全国との差)	△ 7.8	縮	△ 13.0	縮	△ 10.4	縮
	北海道	69.0		49.0		59.0	
	全国	69.8		51.0		60.4	

<各項目の右側の欄は、前年度の差との比較(拡:拡大、縮:縮小)>

領域別レーダーチャート

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び根室市の状況をレーダーチャートで示したもの



学力状況調査の結果から

(小学校)

- 全国及び全道との差について、国語・算数ともに前回（令和5年度）よりも差は縮まっている。
- 平均正答率について、国語は、全道との差は $\Delta 4.0$ ポイント、全国との差は $\Delta 4.7$ ポイントとなっている。
算数は、全道との差は $\Delta 11.0$ ポイント、全国との差は $\Delta 13.4$ ポイントとなっている。
- 教科の領域ごとに見ると、
国語においては、「読むこと」が、全国・全道と比較して落ち込んでいる。
算数においては、「データの活用」や「数と計算」などに特に苦手が見られる。

(中学校)

- 全国及び全道との差について、国語・数学ともに前回（令和5年度）よりも、差は広がっている。
- 平均正答率について、国語は、全道との差は $\Delta 10.0$ ポイント、全国との差は $\Delta 10.1$ ポイントとなっている。
数学は、全道との差は $\Delta 13.0$ ポイント、全国との差は $\Delta 14.5$ ポイントとなっている。
- 教科の領域ごとに見ると、
国語においては、特に「書くこと」と「読むこと」が落ち込んでいる。
数学においては、全体的に課題が見られており、特に「数と式」で落ち込んでいる。

今後の取り組みに向けて

今年度の全国学力・学習状況調査は国語、算数・数学について実施しました。

学力調査で昨年度と比較すると、小学校・義務教育学校前期では2教科共に全国・全道との差が縮まり、中学校・義務教育学校後期では、国語、数学で全国・全道との差が広がる結果となりました。要因としては、小学校・義務教育学校前期で子どもたちが思考する時間を確保したこと、ICTを活用する時間を位置づけられてきたことがあげられます。しかし、国語では「読むこと」における正答率が低く、小学校・中学校・義務教育学校ともに、文章全体の中から目的に応じて必要な情報に着目して要約できるかという部分が課題です。算数・数学では、記述式の問題における正答率が低く、小学校・中学校・義務教育学校ともに、思考の流れや組み立てを明確にして記述することが課題です。子どもたち自身が課題に対する見通しをもち、各教科特有の見方・考え方を働かせる力が必要です。子どもたちが課題を自分事として捉え、「何ができるか」を主体的に考え、仲間とともに解決するような授業改善が必要です。

質問紙調査において、「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んで」の質問で「当てはまる、どちらかと言えば当てはまる」と回答した児童の割合が昨年度より増加しましたが、中学校・義務教育学校後期では、昨年度より若干低い結果となりました。教え込むのではなく、児童生徒に考えさせる授業改善は進んできていますが、より意識を高めて継続した取組を行う必要があります。また、児童生徒一人一人に配備したタブレットなどのICT機器を授業で積極的に活用する取組により、「今まで受けてきた授業で、PC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の質問で、週3回以上使用していると回答した児童生徒の割合が、全国平均を上回りました。根室市学力向上プロジェクトにおいても、ICT機器の使用目的を明確にして、効果的に授業等で活用するための授業公開を行い、各学校へ成果を還元します。今後、子どもたちの「個別最適な学び」や「学びの個性化」に向け、ICT機器を効果的に活用した授業改善に取り組んでまいります。

将来の根室を担う子どもたちが、予測困難な社会を生きぬく力を育てていくために、学校・家庭・地域及び行政が、それぞれの役割を明確にし、連携を取り合いながら取組を進め、さらなる学力向上に向け、児童生徒の学習状況の改善に努めてまいります。